

「いってらっしゃい、気を付けて」

池田小学校 四年 杉野 廉汰

僕は、2歳の時にスライダーというキックバイクで遊びに行く途中に転倒して、顔や手足にたくさんケガをしました。急な下り坂でスピードが出てしまい壁に激突して転倒しました。たまたま近くで子供と遊んでいた消防士の人が、大きい音に気付いてすぐに来て下さり、手当をしてくれました。僕はその時のことはあまりよく覚えていませんが、母のスマートフォンに残っている自分の写真を見ると少し思い出して怖くなります。

それ以来、僕が学校に行く時や、自転車で遊びに行く時、「いってきます。」と言うと、母は必ず、「いってらっしゃい、気を付けてよ。」と言います。いつも、「はいはい。」と適当に返事をして家を出ていますが、母はあの時の僕の顔が忘れられないから、「気を付けてよ。」と言っているんだと思います。

2歳の時は、まだ何をしたら危ないとか、地域の危ない場所を理解していませんでしたし、大人の注意もよく聞いていなかったと思います。でも今では、体も大きくなって2歳の時より大きな自転車にも乗っているのです、今度は自分一人ではなく、他人を巻き込んで相手にケガをさせてしまう可能性もあります。そこで、事故を起こさないために、そして自分を守るために、僕にできることは何か考えてみました。

交通ルールを守ること、ゆずり合いの気持ちを持つこと、「多分いけるだろう」ではなく「もしかしたら」と考えること、などたくさん思いつきました。すべて大切ですがそのなかでも特に、絶対に守ろうと思うことは、自転車に乗る時には必ずヘルメットを着用することです。数カ月前のニュースで、徳島県のヘルメット着用率はわずか二十七パーセントだと知り、おどろきました。ヘルメットをかぶらない理由の多くは、持っていない、値段が高いことだそうです。そのことを祖父と話したところ、僕の住んでいる三好市では、自転車用ヘルメット購入費補助金というのがあり、購入費用の二分の一、最大三千元まで補助してもらえます。祖父はそれを利用して購入したそうです。僕は祖父がヘルメットを着用してくれていてうれしいです。なぜかという、自転車の交通事故死事故にあつた人の六十パーセント近くは頭部に致命傷を負っているからです。多くの人にこのことを知ってほしいと思います。

その他のかぶらない理由は、ダサイとか努力がむだだから、だそうです。もし僕があの時、ヘルメットをかぶっていなかったとしたら、もっと大きなケガをしていたかもしれません。おしゃれなヘルメットもたくさんあるので、自分を守るため、家族に心配をかけないためにも、みんなにかぶってほしいです。

そして、僕も家族が「いってきます。」と言ったら、「いってらっしゃい、気を付けて。」と返したいです。